

新施設 は虫類・両生類館とその機能

○本田直也¹⁾， 齊藤 雅也²⁾

¹⁾ 札幌市円山動物園， ²⁾ 札幌市立大学

札幌市円山動物園の新施設として、2011年4月「は虫類・両生類館」がオープンした。「は虫類・両生類館」では、爬虫類・両生類の形態、生息地および習性の多様性を伝える展示を実践すると同時に、希少種、飼育困難種および北海道産種の飼育・繁殖技術を確立していくことを目的としている。そのため建築および環境設備システムの計画を進めるにあたり、本園と札幌市立大学の協働で「建築環境学」の知見を取り入れ、空気温湿度、放射温度、光および空気の流れなどの「目に見えない環境要素」のデザインにも配慮し、人為的にコントロールできる仕組みを整えた。これにより展示種それぞれの生息地の気候や季節変動をある程度再現することができるため、展示動物だけでなくレイアウト用の植物も含めた維持管理および継続的な繁殖が可能になると考えている。

また、視覚的な展示の工夫として、動きの少ない爬虫類・両生類を魅力的に見せるため、各展示場のレイアウトは生息地をイメージできるリアルなものとし、動物と植物が美しく溶け込んだ「環境」の展示を心がけている。そして館内は照明および展示場の配置を工夫し、来園者の高揚感を創出するとともに、美術品を鑑賞するような静かで落ち着いた空間構成を目指している。展示スペースは大きく3つのゾーンに分けられ、ワニ類など大型種を中心とした「大型展示ゾーン」、熱帯、亜熱帯、乾燥帯、温帯、北海道と生息地に合わせた展示を行う「小中型展示ゾーン」、および公開型のバックヤードである「センターラボ」からなる。特にセンターラボでは、卵の孵化や幼体の育成、それに関わる飼育員の作業風景などを通し、今までは展示できなかった爬虫類・両生類の生態をリアルタイムに展示することができるため、動物園の役割を伝えるために重要なゾーンとなっている。